

会 記

昭和55年度の本会の足跡は、次の通りである。

昭和55年5月18日 第77回例会および昭和55年度総会。於、信州大学教養部。参加者25名。

〔講演〕土田勝義：白馬岳の高山植生

吉玉国二郎：花の色について

〔総会〕議事進行係 豊国

1) 昭和54年度庶務会計報告(豊国)、監査報告(大木)。いずれも承認。

2) 第13号会誌、500部を印刷。会員負担額900円、会員外頒布額1,400円とする。

3) 長野県植物誌編纂事業第3年目に向けて、協力依頼が奥原委員長からなされた。

8月30～31日 第78回例会(採集会)。北安曇郡小谷村 風吹山。参加者18名。幹事 大木。

9月27～28日 第79回例会(採集会)。佐久市内山 初谷鉢泉付近および星尾峠～兜岩。参加者12名。幹事 山崎。

12月7日 第80回例会。於、信州大学教育学部教育工学センター。参加者14名。幹事 渡辺。

〔講演〕和田清：ヨーロッパの森林植生その他

渡辺隆一：植物季節について

関口信男：北信地域のケイソウ類について

昭和56年3月1日 第81回例会。於、信州大学教養部。参加者19名。幹事 伊藤

〔講演〕大木正夫：雪と森林植物

豊国秀夫：リンドウ類の分類体系

3月22日 第82回例会。於、信州大学教養部。参加者17名。幹事 亀山。

〔講演〕相馬潔：落葉の分解消失と土壤生物

〔シンポジウム〕森林植生と樹木の根系について。

話題提供 林業試験場 荏住昇博士。

〔懇親会〕荏住先生を囲んで。

編集委員会 上記例会終了後、常任幹事による会誌14号の編集作業。審査の末、投稿論文または記事16点が採択、1点が不採択となった。

〔植物ニュース〕53. クサノオウ *Chelidonium majus* L. subsp. *asiatica* Hara

日本や極東のクサノオウは、欧州産の母種に比べ花粉と種子の稔率が低く、亜種として扱われているが、両者の中間のものについてはよく分っていない(原 1949)。このほど入手したシベリアの標本 *Ir-kutsk*, A. K. Skvortsov (SHIN) を観察したところ種子稔率は日本産と同程度であった。(川窪伸光)

長野県植物誌編纂委員会日誌

昭和55年4月1日 補助金交付請求書発送。

4月16日 事務局会議。文化課からの実績報告書に関する問い合わせにつき協議。奥原、松田、山本。

4月17日 実績報告書を再提出。

5月2日 事務局打ち合わせ。文化課からの再度の問い合わせについて相談。奥原、山本。

5月18日 昭和55年度研究会総会。左記参照。

5月30日 昭和54年度補助金入金。

9月10日 事務局打ち合わせ。地区別、活動報告および会計報告の依頼。清水、松田。

9月23日 幹事・地区責任者会議。於、信大教養部。

1) 事務局・地区経過報告 2) 進捗状況の点検

3) 昭和55年度補助金交付申請書 4) 昭和56年度計画書 5) 編纂委員会々則決定 6) 植物誌の形式と内容

9月27日 事務局打ち合わせ。昭和55年度補助金交付申請書・56年度計画書の作成。清水、松田。

10月9日 補助金交付申請書および計画書提出、ほか各種協議。清水、於文化課。

10月21日 長野県産植物標本の所在に関するアンケート発送。幹事会で予算執行に関する協議。

11月27日 昭和55年度収支予算書、最終案を提出。

12月15日 昭和55年度補助金交付決定。

昭和56年1月24日 電算印刷、植物誌見積り書作成。カラー100頁本文1000頁、5000部、27,364,500円也。

1月31日 国立科学博物館にて、電算カード処理。

2月4日 事務局打ち合わせ。地区責任者あて収支報告、採集結果報告および採集許可申請のための資料提出を依頼。清水、松田。

3月1日 幹事・地区責任者会議。於、信大教養部。

1) 予算執行方法の説明 2) 現地調査の方法に関する再確認

3月22日 幹事・地区責任者会議。於、信大教養部。

1) 進捗状況の点検 2) 組織の部分編成がえ

3) 第一次旅費配分

4月3日 昭和55年度実績報告書提出。

編集後記

昭和55年度は、どうしたわけか例会の開催はおくれがち、編纂委員会の活動も夏の悪天候があったからとはいえ期待通りには進まなかったようだ。こうした無償の仕事は、一人ひとりの熱意だけがたよりである。私は前半滞米の故に、十分プロモーターの役は果せなかったが、アメリカでは博物館や植物園など植物学の面でもボランティア活動が大へん活発なのに関心した。(T. S. 生)